

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	新型コロナウイルス対応緊急支援助成「社会的養護アフターケア事業」
資金分配団体名:	公益社団法人 ユニバーサル志縁センター
実行団体名:	特定非営利活動法人 日向ぼっこ
実施時期:	2021年 6月～2022年 2月
事業対象地域:	全国
事業対象者:	生活に窮している若者

Version 3.2

日付: 2022年3月xx日

I. 事業概要

事業実施概要	<p>コロナ禍で失業やアルバイトの削減により経済的に困窮したり、相談できる場所へのアクセスが難しくなり、ストレスや不安から心身の負担が大きくなっている方と継続的な関係性を築き、彼らが自己決定をし、自己実現に前向きに取り組むことができるようサポートを行った。</p> <p>困難を抱えている方との精神的つながりを構築するきっかけとして食料品や衛生用品を毎月送付した。その際、コメントや情報を書いたカードを同封した。人と会う機会が減少する中で、物質的サポートや些細な関わりでも継続的に行うことで、一部の方ではあるが、少しずつ精神的つながりを構築することができた。また、困難な状況にある方が抱えている困難と一緒に考え、寄り添うことで、その方の心身の負担を軽減し、自己決定、自己実現を促すためのサポートが実施できた。</p>
--------	--

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>食料支援について、想定どおり多くのニーズがあった。毎月、ご支援を続けるなかで、回数を重ねるうちに、徐々にメールやお電話で、食料支援のみならず、メッセージカードに対してもお礼やご連絡をいただくようになり、少しずつつながりが出来ていった。当団体へ直接ご連絡が来ない場合でも、連携している児童養護施設等にご支援対象者からのお礼の連絡が増えていき、更に長年連絡がつかなかった方からの連絡も複数あり、各施設の方からも感謝の言葉をいただくことができた。また、食料支援ということを通じて、当団体と各施設との連携の密度があがり、事業開始前より強いつながりを作ることができ、想定していた以上に様々な面での協力体制を構築できるという成果があった。</p> <p>精神的なサポートとしても、ほぼ計画どおりの人数のご相談をお受けできたが、以前からつながりのある方が比較的多かった。今回の事業実施により初めて接点ができただ方は、少しずつつながりができた方はいらしたものの、現時点で経済的な困窮以外のご相談をお受けするまで至った方は一部の方にとどまったので、精神的サポートには継続的なご支援によるつながりの確保が必要であると痛感した。</p>
-------------------	--

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）（事業計画から転記）	④指標（事業計画から転記）	⑤目標値・目標状態（事業計画から転記）	⑥結果(定量化できるものは%も記載、最大100%)	⑦考察
生活困窮者	食料関連の不足	困窮状態にある方が、経済的負担が軽減され、同時に定期的なかかわりを持つことにより、精神的状況が改善・安定し、一人で問題を抱えることがなく、相談できるようになり、生活が少しでも安定する。	メール数 電話本数 来館者数 食品発送数	日常生活に支障がないほどの安定した収入がある問題が起きて一人で抱え込まず、必要な機関等に自ら相談できる精神状態 相談数はメール、電話、来館を合わせ月延15人（計 延135人） 食品送付数は月50人（計 450人）	相談数：124人（91%） 食品送付数：455人（100%）	本事業の目的は、経済的サポートとしての食料等の支援を手段としてつながりを構築することで、精神的サポートを実施し、生活が困窮されている方の自己実現を目指すということであった。経済的サポートについては、計画通り進めることができたと感じている。精神的サポートについても、ある程度の関係性が構築できたと感じている。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況（事業計画から転記）	本事業をきっかけに構築できた当団体との関係により、現在失業等で困難な状況にある方の心身の負担が少しでも軽減され、その方が自己決定のもと自己実現に向けて取り組むことができるようになることを目標とする。新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響はしばらく続くと思われることから、本事業により構築できた当団体との関係性を維持し、今後生じるかもしれない新たな困難に対しても、一緒に考えることを継続することを目標とする。
考察等	関係性の構築というのは時間がかかり、困難を要するものであることは周知の事実であるが、本事業を実施した結果、つながりを作るうえで、食料の支援というのは相手の状況がどのようなものであったとしても話題にできることから、話をするきっかけとしてハードルが低く、非常に有益な方法であることを改めて実感した。また、経済的状況と精神的状態は相互に密接に関連していることから、経済的、精神的の両面で継続的な支援が不可欠であると思われるが、現在の自団体のリソースだけでは、食料支援に関してはご支援の対象人数や回数を減らして、細々と続けることが精一杯である。食料支援については、「一過性のもので、ばらまきの側面が大きい」と捉えられがちで、その効果について十分に認識されていないところがあるが、今回のように食料支援をきっかけとして精神的サポートにつながる可能性が見えてきたことから、今後の継続的な支援のための資金や物資の確保が課題である。

V. 活動

活動	進捗	概要
1) 困窮状態にある方の経済的負担が軽減するための活動	計画通り	毎月のお送りする日程に数日のずれはあるものの、定期的にお送りすることができた。
2) 精神状態が改善・安定するための活動	ほぼ計画通り	ほぼ想定通りの人数のご相談をお受けすることができた。
3) 関係性ができ、長期的に伴走サポートを受けることができるための活動	ほぼ計画通り	当団体が以前から関わっていた方とは、より深い関係性を築くことができた。本事業の実施の際に、連携している施設等からご紹介を受けて初めて接点を持った方とは、施設と協力・情報共有しながら、今後もサポートを続けていきたい。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	連携している施設等からご支援対象者を紹介して頂くことにより、その後の情報共有などで当団体と各施設との接点が増え、事業開始前よりも各施設等とのつながりを強化することができた。例えば施設側が施設から巣立った方の現状を確認したくても、なかなか連絡のつかないことも多いなか、食料支援というツールを使うことにより、連絡が取れるようになったり、ご支援の食料を施設にお送りし、その食料を施設の方がご支援対象者に直接届けることにより、近況を確認することができたりなど、ご支援対象者からのみならず、各施設からも感謝の言葉をいただいた。各施設と当該施設の退所者である今回のご支援対象者がつながるきっかけとなったことは、想定していない効果であった。さらに、これまで施設とのかかわりの中で個人情報保護の観点からか、共有していただける情報はほとんどなく、協働することが難しいと感じる場面も何度かあったが、今回、継続的にかかわる中で、施設の方から食料支援をされている方だけでなく、食料支援とは直接かかわっていない方についてご相談を受けるようになったなど、今後は子ども達に生じた問題につき、協働できることを実感した。
---------------------	---

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	コロナの長期化により、勤務シフトの削減や解雇などのご相談がさらに増えており、就労状況の改善の兆しはない。収入が減ったり、なくなったりすることにより、生活が困窮し、精神的にも不安定になるという状況が、本助成金の申請時よりも悪化していると認識している。こういった現状を踏まえ、当団体としてはますます物心両面でのサポートが不可欠であると考えている。経済的サポートはこれまでのようなご寄付だけでは限界があるので、今後の再現をいかに確保するかにかかっている。精神的サポートについては、この食料支援を通じてかかわりを持たれた方については、たとえ食料等の物質的支援ができなくても、今後も当団体のイベント等をご紹介するなど、根気よくお声がけをする等を実施してかかわりを継続することとする。
-----------	--

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
NPO法人にじのはし	社会的養護の当事者の方のアフターケアと相談を実施している団体なので、まず、事業実施にあたり、コロナ下で困窮している方がいるかどうかお尋ねし、リストアップしていただき、その方たちに食料等を送付することとした。また、食料等を送付した方たちが進学や就職活動において問題が生じた方に対し、連携してその相談にのる等の対応を実施した。
児童養護施設 若草寮	まず、事業実施にあたり、コロナ下で困窮している方がいるかどうかお尋ねし、リストアップしていただき、その方たちに食料等を送付することとした。その後は毎月食料を送付するたびに、送付内容をお知らせした。施設からは、毎月、食料を受け取った方たちの様子や、お礼の声をご連絡いただいた。さらに、その方たちの生活の変化等もお知らせいただき、問題が起こったときにはすぐに対応できるように連携した。
児童養護施設 双葉園	まず、事業実施にあたり、コロナ下で困窮している方がいるかどうかお尋ねし、リストアップしていただき、その方たちに食料等を送付することとした。その後、施設からは、食料を受け取った方たちの様子や、お礼の声、また新たに食料を送ってほしい方等のご連絡をいただいた。
児童養護施設 れんげ学園	まず、事業実施にあたり、コロナ下で困窮している方がいるかどうかお尋ねし、リストアップしていただき、その方たちに食料等を送付することとした。その後、施設からは、食料を受け取った方たちの様子や、お礼の声、また新たに食料を送ってほしい方等のご連絡をいただいた。さらに、食料等をお送りしている方へ連携してサポートを実施したいとのご連絡をいただき、経済面、精神面の両面で連携し、サポートを実施した。
児童養護施設 錦華学園	まず、事業実施にあたり、コロナ下で困窮している方がいるかどうかお尋ねし、リストアップしていただき、その方たちに食料等を送付することとした。その後、施設からは、食料を受け取った方たちの様子や、お礼の声、また新たに食料を送ってほしい方等のご連絡をいただいた。さらに、食料等をお送りしている方の中で、離職をしてした方へ連携してサポートを実施したいとのご連絡をいただき、経済面、精神面の両面で連携し、サポートを実施した。

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	4,543,680	4,563,825	100.4%
	管理的経費	57,500	72,531	126.1%
合計		4,601,180	4,636,356	100.8%
補足説明		特になし		

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	当団体のホームページ、毎月作成するメールマガジンへの記載
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	特になし
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	毎月の食料等の発送の際に、発送用段ボールにシンボルマークのシールを貼付
4.報告書等	

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	整備中	事業開始前は、給与に関する規定はなかったが、設定にあたり、規程を理事会でディスカッションし、団体内部の理解も促進され、ほぼ運用ができる状態になったと感じている
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		事業開始前は、給与に関する規定はなかったが、理事会で規定を作成したので、規定の作成が完成し次第、運用を開始する予定
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	未公開	上記の通り、給与規定については、運用開始後、掲載を予定している
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	いいえ	理事会にて検討、作成中
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置しましたか。	いいえ	理事会にて検討、作成中
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 外部監査	
	<input type="checkbox"/> 内部監査	
	<input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	